

日本高等教育学会 第26回大会 大会プログラム

(2023年6月1日 修正第4版)



2023年6月10日(土)・11日(日)

会場：千葉大学 西千葉キャンパス

(オンライン併用ハイブリッド方式)

The 26th Annual Meeting

JAHER

Japanese Association of Higher Education Research

日本高等教育学会

共催：千葉大学 国際未来教育基幹 高等教育センター



千葉大学
CHIBA UNIVERSITY



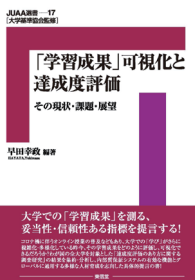
教育グローバル化のダイナミズム—なぜ教育は国境を越えるのか

ジョエル・スプリング著
監訳 北村友人 翻訳者代表 山田雄司・鈴木耕平

A5・上製・360頁・3960円

地球世界は、経済の国際化により1つにつながって久しい。今日の物流の世界化がインターネットによってより加速させられる中、国際企業と国際機関から教育の企業化が進められ、グローバルに通用する人間のスキルが求められた。OECD はじめ国際組織の教育戦略の実態を追うとともに様々な教育問題を包括的に考える優れた時宜を得た書。

教育のグローバル化のすべて！



「学習成果」可視化と達成度評価

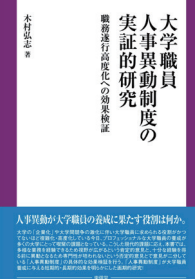
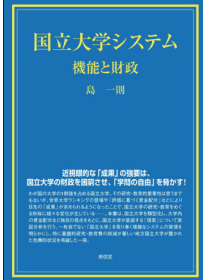
早田幸政編著 大学基準協会監修
A5・424頁・4180円

大学での学びが多様化している今、学習成果をどのように評価し、可視化できるか。「達成度評価」のあり方に関する調査研究」を分析し、内部質保証システムの有効性とグローバルに通用する多様な人材育成のための具体的な提言書。

国立大学システム

機能と財政
島一則著 A5・296頁・3960円

目先の「成果」が求められる中、国立大学の教育・研究を巡る財政とその機能に変化を求められている。大学内の資金配分等の視点から大学の機能を実証分析し、研究・教育費削減が著しい地方国立大学の危機的現状を解明した労作。



大学職員人事異動制度の実証的研究

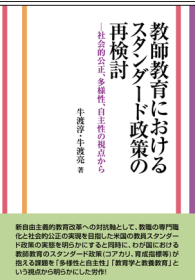
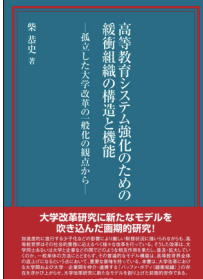
職務遂行高度化への効果検証
木村弘志著 A5・424頁・4180円

大学間競争激化に伴い、専門的大学の養成が喫緊の課題となっている。「人事異動制度」の効果検証を行い、大学職員養成に与える短・長期的効果を明らかにする。

高等教育システム強化のための緩衝組織の構造と機能

孤立した大学改革の一般化の観点から
柴恭史著 A5・304頁・4620円

大学改革における一校単体改革より大学間と大学—企業間を仲介・連携する「バッファ・ボディ」の役割を浮かびあがらせ、協働的モデルを創り上げた前衛的労作。



教師教育におけるスタンダード政策の再検討

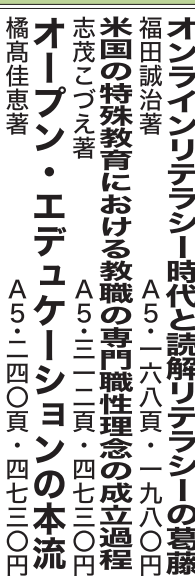
牛渡淳・牛渡亮著 A5・248頁・3740円

教職専門職化と社会的公正を目指した米国の教員スタンダード政策の実態を明らかにし、日本における教師教育政策が抱える課題を多様性と自主性と教育学と教養教育の視点から明らかにした労作！

韓国のキリスト教主義高等教育機関の形成

松本麻人著 A5・240頁・3960円

現代の四年制大学の8割が私立大学であり、その4割がキリスト教主義の高等教育機関が占める韓国で、キリスト教主義教育が現代まで生き残ったのはなぜか。歴史的にひも解く。



STEM高等教育とグローバル・コンピテンス

山田礼子編 A5・312頁・3960円

日・中・米のSTEM分野卒業生と人文・社会科学分野の学生に行った国際比較調査等から、STEM人材の文理融合を目指すグローバル・コンピテンスの現状を解明し、日本の方策を提示した力作。

企業が求める<主体性>とは何か

武藤浩子著 A5・224頁・3520円

概念として曖昧な「主体性」に切り込み、主体性が強く求められることで生じる課題についても示唆する。〈主体性〉に関わる教育界・産業界の方々、また教育から労働へと移行する学生、必読の書。



企業が求める<主体性>とは何か

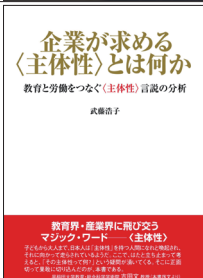
武藤浩子著 A5・224頁・3520円

概念として曖昧な「主体性」に切り込み、主体性が強く求められることで生じる課題についても示唆する。〈主体性〉に関わる教育界・産業界の方々、また教育から労働へと移行する学生、必読の書。

企業が求める<主体性>とは何か

武藤浩子著 A5・224頁・3520円

概念として曖昧な「主体性」に切り込み、主体性が強く求められることで生じる課題についても示唆する。〈主体性〉に関わる教育界・産業界の方々、また教育から労働へと移行する学生、必読の書。



〒113-0023 東京都文京区向丘1-20-6
HP <http://www.toshindo-pub.com>
☎ 03-3818-5521 ☎ 03-3818-5514
✉ toshindo.onlineorder1985@gmail.com
✉ tk203444@fsinet.or.jp (代表)

* 博論書籍化、教科書等の出版相談は代表メールまで！

目 次

ごあいさつ（第 26 回大会実行委員長 小澤弘明）	2
大会日程	3
大会参加のご案内	4
発表者へのお願い	7
司会者へのお願い	8
会場へのアクセス	9
第 26 回大会 対面会場 全体配置図（千葉大学西千葉キャンパス） ..	10
会場一覧	11
自由研究発表・課題研究 会場配置図（総合校舎）	12
会場別プログラム	13
自由研究発表 オンデマンド型オンライン発表 リアルタイム質疑応答	15
自由研究発表Ⅰ	16
自由研究発表Ⅱ	19
自由研究発表Ⅲ	23
課題研究	26
大会校企画 公開シンポジウム	30
協賛企業 広告	32

ごあいさつ

2023年6月10日・11日に開催いたします、日本高等教育学会第26回大会のプログラムが出来上がりました。会員の皆様にお届けいたします。

第26回大会は、千葉大学西千葉キャンパスを会場とした対面実施を基本としつつ、オンラインを併用するハイブリッド形式で実施いたします。日本高等教育学会の対面での大会開催は、2019年以来、4年ぶりとなります。

2022年2月に、小林雅之会長より千葉大学での大会担当のお話をいただき、その後、大会実行委員会では、社会全体の動向を見据えながら、対面実施を前提に2023年6月の学会大会に向けて開催準備を進めてまいりました。他方、この数年で、大学の教育・研究活動にオンラインツールの利用が一般化したことも踏まえ、多様な背景をもつ会員の皆様が学会大会に参加できることが高等教育研究の発展に資するものと考え、オンラインを併用するハイブリッド形式としました。

オンライン併用の具体的なかたちとして、「対面会場」とともに、日本高等教育学会ウェブサイト上の「会員専用ページ」を「オンライン会場」として設定し、発表要旨集録など第26回大会に関する情報を一元的に提示いたします。また、大会で実施するイベントの一部は、オンライン配信を利用し、オンライン参加も可能としています。

具体的には、自由研究発表は、「会場発表」を基本としつつ、発表機会を広く提供するために「オンデマンド型オンライン発表」も選択できるようにいたしました。今回の大会では、自由研究発表は、会場発表が59件、オンデマンド型オンライン発表が10件、総数69件の発表が予定されております。この発表件数は、コロナ禍以前の対面開催の頃の件数とほぼ同程度となりました。

6月10日午後に予定しております学会主催の2つの課題研究は、「科学技術イノベーション政策と大学・高等教育」「高等教育における多様性と包摂」として、現在の高等教育にとって大変重要なテーマが議論されます。なお、これまでの大会では2つの課題研究が同時に並行実施されておりましたが、今回、2つの課題研究の開催時間をずらして実施いただくことで、参加者の皆様が2つともに参加できることになりました。課題研究は、対面会場での実施を基本としつつ、オンラインでの同時配信を行います。

6月11日午後は、大会校企画として「大学の活性化と高等教育改革」をテーマとする公開シンポジウムを、オンライン配信を併用して開催します。山極壽一先生、日比谷潤子先生、山本健慈先生をお招きし、それぞれ研究、教育、大学と地域の関係という異なる視点から「大学の活性化」のために何が必要であるかを御講演いただきます。現在の高等教育改革や高等教育の動向を捉えなおす機会となれば幸いです。

過去2回のコロナ禍の中でオンラインで行われた学会大会は会員のみが対象でしたが、今回の大会は、参加対象もコロナ以前に戻し、会員に限定せず、非会員の方も参加可能としています。対面会場の千葉大学西千葉キャンパスの交通アクセスは、東京駅からも1時間程度、JR西千葉駅・京成千葉線みどり台駅から徒歩数分と利便性がよく、多くの方にご参加いただけると存じます。

それでは、6月の学会大会で皆様にお会いできることを楽しみにしております。

日本高等教育学会 第26回大会実行委員会
委員長 小澤 弘明

大会日程

6月10日・11日の（※）は、対面・オンライン併用のイベント（オンライン参加可能）
無印は、対面会場のみでのイベント

6月1日（木） オンライン会場の公開
(発表要旨集録・オンデマンド型オンライン発表動画の公開)

6月10日（土）

時間	内容	会場
9:00 ~	受 付	総合校舎4号館1階
9:30 ~ 11:20	オンデマンド型オンライン発表 リアルタイム質疑応答（※）	総合校舎2号館
10:30 ~ 12:30	自由研究発表Ⅰ	総合校舎4号館
13:30 ~ 15:30	課題研究Ⅰ（※） 「科学技術イノベーション政策と大学・高等教育」	総合校舎2号館
15:40 ~ 17:40	課題研究Ⅱ（※） 「高等教育における多様性と包摂」	
(12:45 ~ 13:15	課題研究Ⅰ打ち合わせ：総合校舎2号館)	
(12:45 ~ 13:15	課題研究Ⅱ打ち合わせ：総合校舎4号館 21教室)	

・学会及び大会校において懇親会は開催しません

6月11日（日）

時間	内容	会場
9:00 ~	受 付	総合校舎4号館1階
9:00 ~ 11:00	自由研究発表Ⅱ	総合校舎4号館
11:10 ~ 12:30	自由研究発表Ⅲ	
13:15 ~ 13:45	総会	
13:45 ~ 16:45	公開シンポジウム（※） 「大学の活性化と高等教育改革」	けやき会館
(12:00 ~ 13:00	総会打ち合わせ：けやき会館 中会議室)	
(12:00 ~ 13:30	公開シンポジウム打ち合わせ：けやき会館 小会議室)	

6月16日（金） オンライン会場の公開終了

大会参加のご案内

<大会実施方法>

千葉大学西千葉キャンパスを会場とした対面実施を前提としつつ、オンラインを併用するハイブリッド形式で開催します。

・対面会場

千葉大学西千葉キャンパス「総合校舎 2号館・4号館」及び「けやき会館」

・オンライン会場

「オンライン会場」として、日本高等教育学会が利用しているガリレオ社のSOLTIシステムを利用します。学会ウェブサイトの「会員情報管理システム」からアクセスいただけます。

<https://service.gakkai.ne.jp/society-member/mypage/JAHER>

「オンライン会場」は参加者の皆さんに、第26回大会に関する情報を一元的に提示するプラットフォームであり、要旨集録（PDF）を掲載するとともに、自由研究のオンデマンド型オンライン発表の発表動画・課題研究・公開シンポジウムのオンライン参加用URLなどオンライン参加に関する情報を掲載します。

<イベントごとの実施方法>

- ・自由研究発表は、「会場発表」を基本としつつ、発表機会を広く提供するために「オンデマンド型オンライン発表」も採用しています。「オンデマンド型オンライン発表」は、学会当日にリアルタイムオンラインによる質疑応答の時間が設定されています（「会場発表」のオンライン配信はありません）。
- ・課題研究は、対面会場での実施を基本としつつ、オンライン同時配信によるオンライン参加が可能です。
- ・大会校企画は、公開シンポジウムとして、対面会場での実施とともに、ウェビナー方式によるオンライン同時配信によるオンライン参加が可能です。

イベント区分	対面参加	オンライン参加
自由研究発表（会場発表）	○	×
自由研究発表 （オンデマンド型オンライン発表）	○	○
課題研究	○	○
大会校企画 公開シンポジウム	○	○

<大会に関する情報提供・ウェブサイト>

大会に関する情報は、日本高等教育学会のウェブサイト「大会案内」をご参照ください。

<https://jaher-web.jp/conference/26/>

<大会参加費>

- ・大会参加費 5,000 円（対面参加・オンライン参加共通）（不課税）

*会員でない方（非会員）も臨時会員として、上記と同じ金額で参加できます。

臨時会員の方の参加手続きも会員と同様に下記の方法となります。

<大会参加手続き（会員・非会員ともに同じ方法です）>

- ・日本高等教育学会ウェブサイトの「大会参加申込システム」（下記のURL）に従い必要事項を入力し、大会参加登録と大会参加費の支払い手続きを行ってください。

<https://service.gakkai.ne.jp/society-member/auth/apply/JAHER>

- ・参加申し込み（大会参加登録）・参加費支払いの期限は、2023年6月6日（火）18:00 です（厳守）。
- ・大会参加費は、事前支払いのみとなります。
- ・大会参加費のお支払いが完了した方は、対面会場での大会参加とともに、公開日以降にオンライン会場へのアクセスが可能となります。
- ・決済完了後の返金はいたしません。
- ・領収書は「大会参加申込システム」上から、PDFファイルで取得できます。
- ・学会大会当日の大会会場での現金等による参加費の受付は行いません。

<公開シンポジウムのみの参加の場合>

- ・公開シンポジウムは無料で一般に公開（オンラインウェビナー配信）します。
- ・会員の方が、公開シンポジウムだけをオンライン視聴する場合も無料です。参加申込時に「大会参加申込システム」でそのことを選択してください。
- ・会員の方も臨時会員（非会員）の方も、公開シンポジウムだけをオンライン視聴する場合は、下記のURLから参加登録を行ってください。申込期限は2023年6月9日（金）18:00です。

https://zoom.us/webinar/register/WN_pW2lyMU8QRSuzG9dK7hVFQ

<対面会場参加の留意点>

- ・会場の換気・手洗い等の感染症対策にご協力ください。
- ・宿泊は各自ご手配ください。
- ・土日のため対面会場内の食堂・売店は利用できません。近隣の飲食店をご利用いただくか、コンビニエンスストア等をご利用ください。
- ・対面会場への入場は、必ずネームプレートをつけて下さい。原則としてネームプレートのない方は入場できません。
- ・千葉大学西千葉キャンパスは、2023年4月より全面禁煙です。
- ・要旨集録はオンライン会場に掲載するPDF版のみとなります。紙冊子版の配布はありません。

<対面会場のご案内>

- ・受付：総合校舎4号館1階ロビー
6月10日（土）09:00-17:00 6月11日（日）08:30-13:00
- ・クローク：総合校舎4号館1階ロビー（受付会場横）
6月10日（土）09:00-18:00 6月11日（日）08:30-13:00
- ・会員控室：総合校舎4号館24教室
- ・大会実行委員会控室：総合校舎4号館34教室
- ・書籍等の展示・販売：総合校舎4号館内

<無線LANの環境>

- ・千葉大学は、eduroam JPの参加機関です。eduroam参加機関に所属されている方は、eduroamを利用できます。利用開始手続き等は、各自で行ったうえ、ご来場ください。
- ・対面会場参加者には、大会期間中千葉大学内で利用できるeduroamへの臨時アクセスIDを発行予定です。eduroam参加機関に所属している方にもアクセスIDが発行されますが、このアクセスIDではなく所属機関での手続きにもとづいてeduroamを利用することもできます。

<その他>

- ・学会年会費：大会会場では、学会年会費の納入はできません。
- ・呼び出し：対面会場での呼び出しは行いません。
- ・写真撮影の注意：対面会場・オンライン会場ともに、発表者の許可なく写真撮影やビデオ撮影（録画）、録音はできません。
- ・クールビズ期間のため、環境への配慮の点からも、軽装での参加を積極的にご検討ください。

<緊急連絡先>

発表者・司会者共に、緊急に連絡が必要な場合（当日欠席の場合など）は、できるだけ早く、大会実行委員会にE-mailにてお知らせください。

第26回大会実行委員会 E-mail：g005jaher-taikai@ml.gakkai.ne.jp

発表者へのお願い

<会場発表>

- ・発表時間及び質疑応答

発表時間は次のように設定しています。

発表人数	発表時間	質疑応答時間
1人	15分	5分
2人	30分	10分
3人以上	40分	10分

以下の要領で、時間の目安をお知らせします。

【1 鈴】発表終了 5 分前

【2 鈴】発表終了時

【3 鈴】質疑応答終了時

- ・発表用機械器具

- ・発表で使用するP C等の機器は各自ご持参ください。
- ・会場には、プロジェクタ、アナログRGB (D-Sub15ピン) 及び HDMI (タイプAコネクタ) が備え付けられております。発表部会開始前に動作確認をしてください。なお、Mac等を使用する場合は、上記のケーブルに接続するためのアダプタ等を各自お持ちください。

- ・資料のコピー

- ・大会実行委員会によるコピーサービスは行いません。自由研究発表用の配付資料等は各自が必要な部数をご用意ください。

<オンデマンド型オンライン発表>

- ・発表時間及び質疑応答

- ・オンライン会場での発表動画の公開は、6月1日(木)から6月16日(金)までです。対面開催日での発表時間はありません。
- ・オンデマンド型オンライン発表のリアルタイム質疑応答の時間配分は、全ての発表が共通して10分です。

- ・参加方法

- ・リアルタイム質疑応答への参加場所は、任意です(対面会場では、総合校舎2号館)。発表者・参加者ともにご自身の都合の良い場所から参加してください。
- ・リアルタイム質疑応答に参加するためのURLは、オンライン会場に提示します。発表者を含め、参加者はそこからアクセスしてください。開始15分前からアクセス可能です。

司会者へのお願い

<発表および質疑応答時間>

- ・個々の発表の予定時間を超過しないように時間管理をお願いします。

<総括討論>

- ・各部会の最後に総括討論の時間を設けておりますが、その配分時間はそれぞれの部会によって異なっています。
- ・この時間の活用方法は司会者に一任しておりますので、臨機応変に対応していただきますようお願いいたします。

<会場スタッフ>

- ・各会場には、サポートスタッフを1名配置しております。

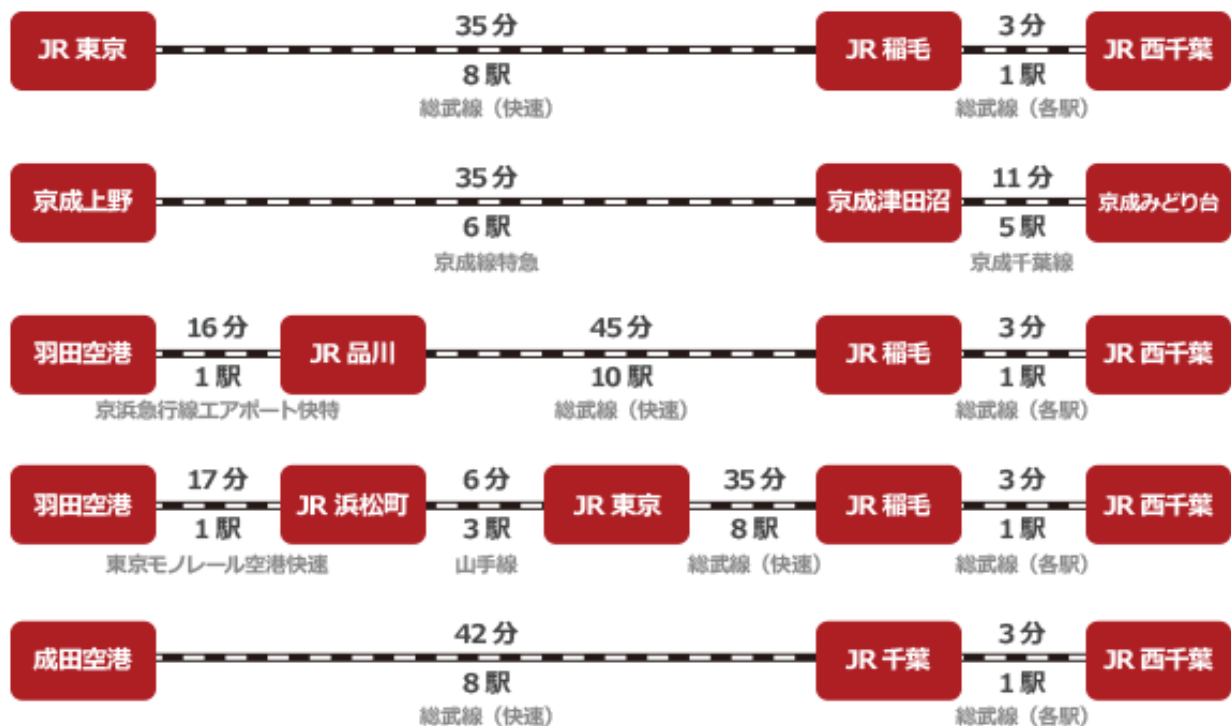
会場へのアクセス

対面会場：千葉大学 西千葉キャンパス

住所：千葉市稲毛区弥生町 1-33

最寄駅：JR 総武線西千葉駅・京成線みどり台駅から徒歩 10 分程度

主な交通アクセス



※ご来場は、公共交通機関をご利用ください。

特別なご事情がある場合には、車でのご来場も可能です。実行委員会に事前にご連絡ください。車でのご来場の場合には、キャンパス正門から入り、守衛所での入構手続きをお願いします（駐車料金 1 日 500 円）。

オンライン会場：

日本高等教育学会ウェブサイトの「会員情報管理システム」

<https://service.gakkai.ne.jp/society-member/mypage/JAHER>

第26回大会 対面会場 全体配置図 (千葉大学西千葉キャンパス)



会場一覧

6月10日（土）

受付：9:00～17:00 総合校舎4号館（G4）1階

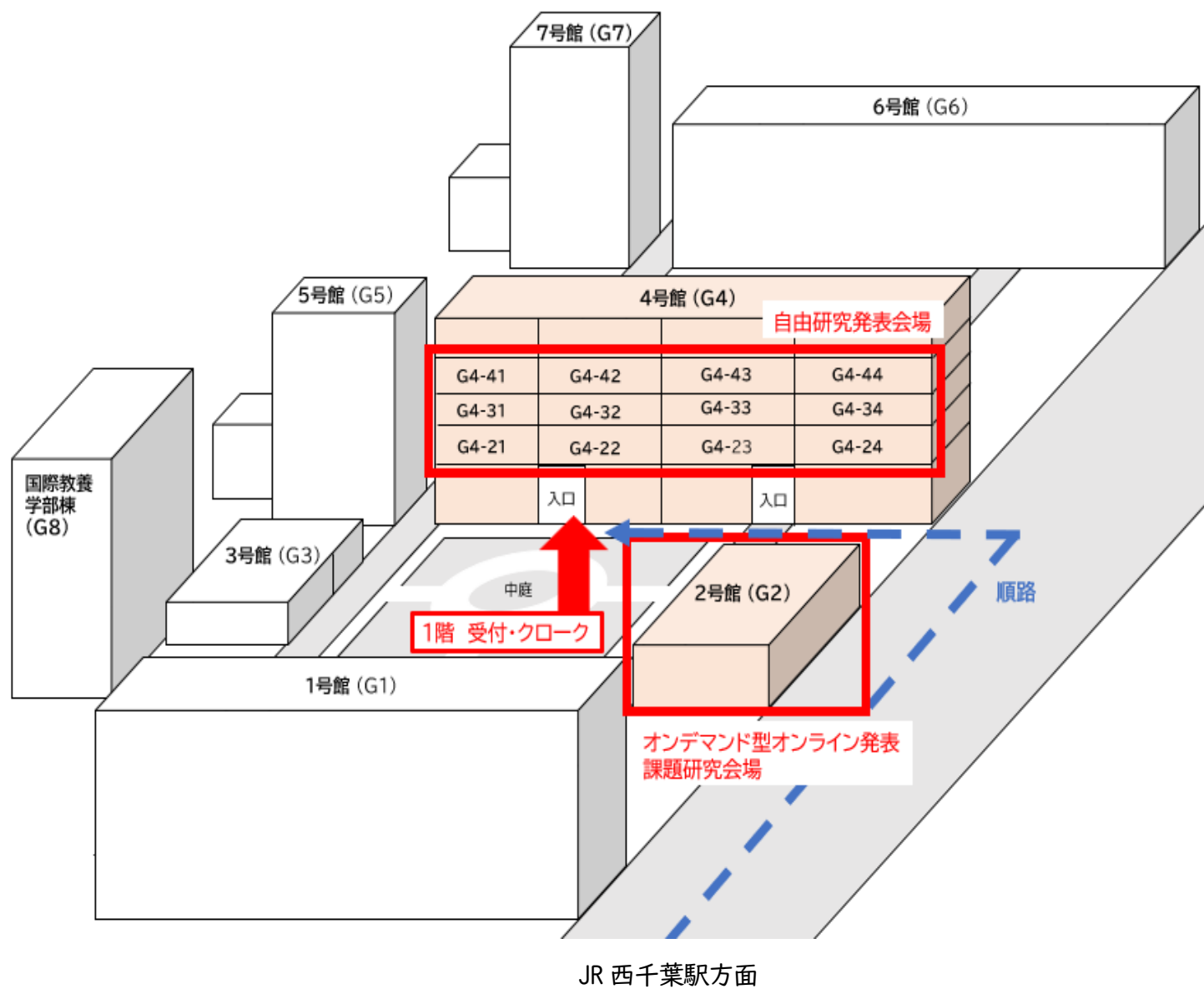
9:30～11:20		
オンデマンド型オンライン発表		
リアルタイム質疑応答（会場・オンライン併用）		
A-1 部会	大学・大学教育と社会	（G2号館）
A-2 部会	高等教育制度・政策	（G2号館）
10:30～12:30		
自由研究発表Ⅰ（会場発表）		
I-1 部会	大学と財政	（G4-31教室）
I-2 部会	研究者養成・研究活動	（G4-32教室）
I-3 部会	高等教育改革	（G4-33教室）
I-4 部会	進学選択	（G4-41教室）
I-5 部会	学生調査	（G4-42教室）
I-6 部会	IRの機能	（G4-43教室）
13:30～15:30		
課題研究Ⅰ（会場・オンライン併用）		
科学技術イノベーション政策と大学・高等教育		
（G2号館）		
15:40～17:40		
課題研究Ⅱ（会場・オンライン併用）		
高等教育における多様性と包摂		
（G2号館）		

6月11日（日）

受付：8:30～13:00 総合校舎4号館（G4）1階

9:00～11:00		
自由研究発表Ⅱ（会場発表）		
Ⅱ-1 部会	社会人と大学教育	（G4-21教室）
Ⅱ-2 部会	諸外国の高等教育	（G4-31教室）
Ⅱ-3 部会	大学の組織論	（G4-32教室）
Ⅱ-4 部会	全国調査からみたIR	（G4-33教室）
Ⅱ-5 部会	教学マネジメント	（G4-41教室）
Ⅱ-6 部会	地域と大学	（G4-42教室）
Ⅱ-7 部会	大学の歴史	（G4-43教室）
11:10～12:30		
自由研究発表Ⅲ（会場発表）		
Ⅲ-1 部会	大学と職員	（G4-31教室）
Ⅲ-2 部会	私立大学経営	（G4-32教室）
Ⅲ-3 部会	学生の自己認識	（G4-33教室）
Ⅲ-4 部会	高等教育と職務能力	（G4-41教室）
Ⅲ-5 部会	学生支援	（G4-42教室）
13:15～13:45		
総会（けやき会館）		
13:45～16:45		
公開シンポジウム（会場・オンライン併用）		
大学の活性化と高等教育改革（けやき会館）		

自由研究発表・課題研究 会場配置図 (総合校舎)



会場別プログラム

6月10日（土） 大会第1日目									
	G-2	G4-21	G4-31	G4-32	G4-33	G4-41	G4-42	G4-43	けやき会館
9:00									
10:00	オンデマンド型 オンライン発表 リアルタイム 質疑応答 (9:30-11:20) ※								
11:00			自由研究発表Ⅰ Ⅰ-1部会 大学と財政 (10:30-12:30)	自由研究発表Ⅰ Ⅰ-2部会 研究者養成 ・研究活動 (10:30-12:30)	自由研究発表Ⅰ Ⅰ-3部会 高等教育改革 (10:30-12:30)	自由研究発表Ⅰ Ⅰ-4部会 進学選択 (10:30-12:30)	自由研究発表Ⅰ Ⅰ-5部会 学生調査 (10:30-12:30)	自由研究発表Ⅰ Ⅰ-6部会 IRの機能 (10:30-12:30)	
12:00									
13:00									
14:00	課題研究Ⅰ (13:30-15:30) ※								
15:00									
16:00									
17:00	課題研究Ⅱ (15:40-17:40) ※								

6月11日（日） 大会第2日目									
	G-2	G4-21	G4-31	G4-32	G4-33	G4-41	G4-42	G4-43	けやき会館
9:00		自由研究発表Ⅱ Ⅱ-1部会 社会人と大学教育 (9:00-11:00)	自由研究発表Ⅱ Ⅱ-2部会 諸外国の高等教育 (9:00-11:00)	自由研究発表Ⅱ Ⅱ-3部会 大学の組織論 (9:00-11:00)	自由研究発表Ⅱ Ⅱ-4部会 全国調査からみたIR (9:00-11:00)	自由研究発表Ⅱ Ⅱ-5部会 教学マネジメント (9:00-11:00)	自由研究発表Ⅱ Ⅱ-6部会 地域と大学 (9:00-11:00)	自由研究発表Ⅱ Ⅱ-7部会 大学の歴史 (9:00-11:00)	
10:00									
11:00			自由研究発表Ⅲ Ⅲ-1部会 大学と職員 (11:10-12:30)	自由研究発表Ⅲ Ⅲ-2部会 私立大学経営 (11:10-12:30)	自由研究発表Ⅲ Ⅲ-3部会 学生の自己認識 (11:10-12:30)	自由研究発表Ⅲ Ⅲ-4部会 高等教育と職務能力 (11:10-12:30)	自由研究発表Ⅲ Ⅲ-5部会 学生支援 (11:10-12:30)		
12:00									
13:00									総会 (13:15-13:45)
14:00									公開シンポジウム 大学の活性化と 高等教育改革 (13:45-16:45) ※
15:00									
16:00									

※ 対面・オンライン併用のイベント（オンライン参加可能）

自由研究発表

(発表タイトルは申込内容、発表者の所属は 2023 年 2 月 28 日時点で学会に登録されている内容です。

会長プロジェクトと個人発表の重複に限り、複数回登壇が許可されています)

A-1 部会 G2 号館

オンライン発表部会Ⅰ 大学・大学教育と社会

司会：前田 早苗（千葉大学）

- 09:30~09:40 日本・フランス・韓国の仕事と家庭についての意識
ー学歴は影響を与えるのかー
○小森亜紀子（昭和女子大学）
- 09:40~09:50 個別大学が公開する財務情報は高校生などの進学先検討・決定時に重要な指標となりうるか
○松尾修（大阪学院大学）
- 09:50~10:00 事例から見る米国学寮プログラムの実態と教育的意義
ーLLC（Living Learning Communities）における統合の概念に着目して
○安部有紀子（名古屋大学） ○蝶慎一（香川大学）
- 10:00~10:10 奨学金が大学生の就労行動に与える影響
ーメンタルアカウンティングに着目して
○呉書雅（福島大学） 西村君平（東北大学）
- 10:10~10:20 実在論的評価の IR への応用
○西村君平（東北大学） 呉書雅（福島大学）

A-2 部会 G2 号館

オンライン発表部会Ⅱ 高等教育制度・政策

司会：前田 早苗（千葉大学）

- 10:30~10:40 マイクロレデンシャルの質保証をどう考えるか
○野田文香（大学改革支援・学位授与機構）
- 10:40~10:50 第三段階教育におけるビジネス分野の学修成果とキャリア・職業能力の形成
○吉本圭一（滋慶医療科学大学） ○江藤智佐子（久留米大学） ○亀野淳（北海道大学）
- 10:50~11:00 博士人材政策におけるデータ活用に関する比較的考察
○川村真理（文部科学省）
- 11:00~11:10 高等教育政策は誰のためにあるか
ー政治権力の力学の中における高等教育の動態
○磯田文雄（花園大学）
- 11:10~11:20 国立大学協会の成立と展開
ー1950年代から1960年代にかけての権力対応の変化
○平塚力（京都文教大学）

I－Ⅰ部会 G4-31 教室

大学と財政

司会：島 一則（東北大学）

- 10:30～10:50 国立総合大学における内部資源配分の現状と考察
○水田健輔（大学改革支援・学位授与機構） 竹中亨（大学改革支援・学位授与機構：非会員）
佐藤亨（日本生産性本部：非会員）
- 10:50～11:10 公立大学法人の財政・財務状況
○渡部芳栄（岩手県立大学）
- 11:10～12:00 日本高等教育学会会長プロジェクト：高等教育財政の新たな動向と課題
—国立大学・私立大学への資源配分の変化と影響—
○羽田貴史（東北大学） ○辻優太郎（東京大学大学院） ○齋藤渉（東北学院大学）
○塙武郎（専修大学） 白川優治（千葉大学） 林透（金沢大学） 磯田文雄（花園大学）
大場淳（広島大学） 田中正弘（筑波大学） 丸山和昭（名古屋大学）
荒井克弘（独立行政法人大学入試センター） 小山竜司（神奈川大学）
- 12:00～12:30 総括討論

I－Ⅱ部会 G4-32 教室

研究者養成・研究活動

司会：山本 眞一（筑波大学・広島大学・桜美林大学）

- 10:30～10:50 大学における研究データポリシー導入の意味を考える
○船守美穂（国立情報学研究所）
- 10:50～11:10 大学院博士政策の近年の展開と課題
○加藤毅（筑波大学）
- 11:10～12:00 研究生産性の高い大学教員の形成過程と研究環境の世代別分析
○有本章（広島大学） ○大膳司（広島大学） ○黄福涛（広島大学） Kim Yangson（広島大学）
村澤昌崇（広島大学） 天野智水（琉球大学） 浦田広朗（桜美林大学） ○葛城浩一（神戸大学）
- 12:00～12:30 総括討論

I－3部会 G4-33 教室

高等教育改革

司会：米澤 彰純（東北大学）

- 10:30～10:50 国立大学における学外者の経営参画に関する研究
－学外理事に着目して
○鈴木拓人（筑波技術大学）
- 10:50～11:10 国立大学第4期中期目標・中期計画の計量テキスト分析
○相原総一郎（芝浦工業大学） 小柏香穂理（お茶の水女子大学）
- 11:10～12:00 高等教育改革の政治経済学
－オランダとドイツ
○大森不二雄（東北大学） ○杉本和弘（東北大学） ○田中秀明（明治大学） ○大場淳（広島大学）
- 12:00～12:30 総括討論

I－4部会 G4-41 教室

進学選択

司会：濱中 義隆（国立教育政策研究所）

- 10:30～10:50 米国における大学選択
－大学ガイドの役割
○宇田川拓雄（嘉悦大学）
- 10:50～11:10 高校生の時間選好と進学希望との関係
－2時点パネルデータによる交差遅れ効果モデルの推定
○日下田岳史（大正大学）
- 11:10～11:50 海外大学院進学希望者の意思決定プロセスに関する混合研究
○勝本伸司（アイオワ大学大学院） ○中原理沙（アイオワ大学大学院）
- 11:50～12:10 人文社会系大学における学部教育から大学院進学への接続
－学部時代の経験・意識に着目して
○久保京子（東京大学）
- 12:10～12:30 総括討論

I - 5 部会 G4-42 教室

学生調査

司会：吉田 文（早稲田大学）

- 10:30~10:50 国際学生調査から見たコロナ禍における大学院生の経験
—X 国立大学の事例
○陳麗蘭（大阪大学） 矢田尚也（大阪大学：非会員） 川嶋太津夫（大阪大学）
和嶋雄一郎（名古屋大学）
- 10:50~11:10 「全国学生調査」をどう利用するか：T 大学のケース
—組織・制度論的視座の検討を中心に
○劉文君（東洋大学）
- 11:10~12:00 大学生・大学院生のグローバル・コンピテンスに関する5か国比較
—With コロナ期の授業形態と学修状況
○山田礼子（同志社大学） ○杉谷祐美子（青山学院大学） ○堺完（大分大学）
木村拓也（九州大学/大学入試センター） 塚原修一（関西国際大学）
森利枝（大学改革支援・学位授与機構） 白川優治（千葉大学） 山田亜紀（玉川大学：非会員）
スティーブンソン・ビリー（同志社大学：非会員） 孫世偉（青山学院大学：非会員）
- 12:00~12:30 総括討論

I - 6 部会 G4-43 教室

IR の機能

司会：浅野 茂（山形大学）

- 10:30~11:20 日本で機能する IR とは
—テレンジーニの「3つの知性」論を日本の文脈から再考察する
○立石慎治（筑波大学） ○柳浦猛（筑波大学） ○小原明恵（筑波大学）
- 11:20~12:10 大学情報の結節点としての IR の組織と機能
—日本と米国の調査から
○福留東土（東京大学） ○高木航平（東京大学大学院） ○森田尚子（東京大学大学院）
○佐藤寛也（東京大学） ○篠田雅人（早稲田大学） 胡 云潼（東京大学大学院）
杉本昌彦（学校法人 上智学院） 白水晶子（東京大学大学院） 下間康行（一橋大学）
寺田悠希（東京大学大学院） 西健太郎（東京大学大学院） 野村由美（東京大学大学院）
本庄秀明（東京大学大学院） 両角亜希子（東京大学）
- 12:10~12:30 総括討論

社会人と大学教育

司会：濱中 淳子（早稲田大学）

- 09:00～09:20 仕事に関連すると認識される人文社会系の知識
―「大学教育の分野別質保証のための教育課程編成上の参照基準」の視点から
○二宮祐（群馬大学）
- ~~09:20～09:40 仕事におけるスキルの使用と賃金に対する職場環境等の影響の分析
―大卒以上の学歴の正社員を対象としたモニター調査の分析結果の報告
○廣田英樹（文部科学省 国立教育政策研究所） 発表取消し~~
- 09:20～10:10 大学は成人学習需要をいかに取り込めるか
―インタビュー調査からの検討
○両角亜希子（東京大学大学院） ○菅原慶子（東京大学） ○森卓也（東京大学大学院）
○中村智治（東京大学大学院） 高本尽（東京大学大学院：非会員）
古庄裕（東京大学大学院：非会員）
- 10:10～11:00 総括討論
-

諸外国の高等教育

司会：杉本 和弘（東北大学）

- 09:00～09:20 カンボジアにおける自律的な高等教育セクターの構築に向けた現状と展望
―大学院・研究機能と国際連携に着目して
○梅宮直樹（上智大学） 米澤彰純（東北大学）
- 09:20～09:40 内部質保証に参画する学生代表
―イギリスの大学の学生組合は どのように学生代表を参画させているのか―
○田中正弘（筑波大学）
- 09:40～10:00 持続可能な中小規模私立大学モデルの探求
―カリフォルニア地域の歴史的考察
○長沢誠（埼玉大学）
- 10:00～10:20 インドネシアの国立大学の法人化に関する考察
―財務システムを中心に
○和氣太司（公益財団法人 医学教育振興財団）
- 10:20～11:00 総括討論

大学の組織論

司会：藤村 正司（徳島文理大学）

- 09:00～09:20 大学組織論における組織と教員の関係性の再考
—医学部の内部質保証を事例とした「上意下達モデル」と「再解釈モデル」の対比
○元濱奈穂子（一橋大学）
- 09:20～09:40 教養系学部の内部組織分析のための理論的枠組み
○栗原郁太（津田塾大学）
- 09:40～10:00 戦後の新聞論説における大学の自治に関する論調の変容
○高見英樹（東京大学）
- 10:00～10:20 大学組織における組織的な反知性を促進する文化的要因
○中島英博（立命館大学）
- 10:20～10:40 アメリカの大学におけるシェアド・ガバナンスの現状と課題
○羽田貴史（東北大学）
- 10:40～11:00 総括討論

全国調査からみた IR

司会：金子 元久（筑波大学）

- 09:00～09:40 大学 IR の学術的基盤の構築と人材育成のためのアンケート調査
○森雅生（東京工業大学） 松田岳士（東京都立大学：非会員） 石井雅章（神田外語大学：非会員）
杉原亨（関東学院大学：非会員） ○井芹俊太郎（神田外語大学）
大石哲也（九州工業大学：非会員） 高松邦彦（東京工業大学：非会員）
近藤伸彦（東京都立大学：非会員） 今井匠太郎（東京工業大学：非会員）
- 09:40～10:30 日本高等教育学会会長プロジェクト：日本型 IR の現状と課題
—全国 IR 調査データを用いて—
○村澤昌崇（広島大学） ○松宮慎治（信州大学） ○三上亮（奈良学園大学）
○井芹俊太郎（神田外語大学） 宮田弘一（静岡産業大学） 樊怡舟（広島大学：非会員）
康凱翔（広島大学大学院：非会員） 中尾走（広島市立大学：非会員）
山田礼子（同志社大学） 浅野茂（山形大学） 小湊卓夫（九州大学）
堺完（大分大学） 劉文君（東洋大学）
- 10:30～11:00 総括討論

Ⅱ－5部会 G4-41 教室

教学マネジメント

司会：山田 剛史（関西大学）

- 09:00～09:20 履修登録上限単位数（CAP）の現状と課題
－教学マネジメント充実に向けた教務部門の運用－
○中村章二（鈴鹿大学）
- 09:20～09:40 コロナ禍の大学教育におけるメディア授業とその課題について
－A大学の教員を対象とした調査から
○池田美穂（千葉大学大学院）
- 09:40～10:00 「ここかしこ」型アクティブ・ラーニングでいいのか
－教学マネジメントの観点から
○大多和直樹（お茶の水女子大学）
- 10:00～10:20 大学校風とその活用をめぐる調査考察
－大学の個性化に向けて
○大川一毅（岩手大学） 大野賢一（国立大学法人 鳥取大学） 畠田敏行（茨城大学）
- 10:20～11:00 総括討論

Ⅱ－6部会 G4-42 教室

地域と大学

司会：吉本 圭一（滋慶医療科学大学）

- 09:00～09:20 沖縄における「大学空間」の形成
－都市との相互浸透性に着目して
○大前敦巳（上越教育大学）
- 09:20～09:40 地域における高等教育改革のアクターとしての大学コンソーシアム
－地方公共団体・産業界との連携の視点から
○柴恭史（桃山学院教育大学）
- 09:40～10:20 人口減少社会における大学の役割の再構築と地域創生人材育成
○濱名篤（関西国際大学） ○塚原修一（関西国際大学） 白川優治（千葉大学）
深澤晶久（実践女子大学：非会員） 合田隆史（（一社）文教夢倶楽部）
山田礼子（同志社大学） 杉谷祐美子（青山学院大学）
- 10:20～11:00 総括討論

大学の歴史

司会：岩田 弘三（武蔵野大学）

- 09:00～09:20 「池正勸告」とは何だったのか
○鳥居聖（学生文化創造）
- 09:20～09:40 大学・短大設立の歴史的経緯
－千葉県を対象として
○白水晶子（東京大学大学院）
- 09:40～10:00 東京帝国大学における非法制的な組織の意義と役割
－「研究室」・「教室」の構造と機能
○今野翔太（国際医療福祉大学）
- 10:00～10:20 46 答申「高等教育の改革に関する基本構想」の検討
○戸村理（東北大学）
- 10:20～10:40 医学の専門分化はどのように起こり 進んできたのか
－George Weisz., 2006, Divide and Conquer における議論を中心に
○丸山和昭（名古屋大学）
- 10:40～11:00 総括討論
-

大学と職員

司会：中井 俊樹（愛媛大学）

- 11:10～11:30 感染症にさらされた場としての大学における自律的教職協働
－学生支援のボランティア募金活動「Show our MFS Project」を通じて
○江原昭博（関西学院大学）
- 11:30～11:50 大学職員の”望ましい”業務行動
－他部署への依頼業務のケースを題材として
○木村弘志（東京大学）
- 11:50～12:10 日本の「大学職員の国際化」に関する研究の類型
－自動詞としての国際化 他動詞としての国際化の観点から
○小嶋緑（広島大学）
- 12:10～12:30 総括討論
-

私立大学経営

司会：両角 亜希子（東京大学）

- 11:10～11:30 私立大学経営における学部設置の機能
－大規模私立大学を対象とした整理－
○水野雄介（東京大学）
- 11:30～11:50 理事長のリーダーシップに着目した大学経営に関する一考察
－小規模私立大学における事例分析を通して
○福山敦（茨城キリスト教大学）
- 11:50～12:10 地方私立大学における留学生の量的拡大と質的保証を両立する学生支援とは？
－山梨学院大学の取り組みを事例に
○潘秋静（山梨学院大学）
- 12:10～12:30 総括討論

学生の自己認識

司会：山田 礼子（同志社大学）

- 11:10~11:30 主体的学習態度の規定要因に関する考察
ー選抜性の違いに着目して
○本庄秀明（東京大学） 福留東土（東京大学）
- 11:30~11:50 大学生の自己肯定感に関する実証的研究
ーA 大学でのアンケート調査からー
○青木佑輔（学校法人 根津育英会武蔵学園）
- 11:50~12:10 愛校心ある大学卒業生にとって、母校はいかに語られるのか
ー掲載メディアの違いに着目して
○古畑翼（筑波大学）
- 12:10~12:30 総括討論

高等教育と職務能力

司会：大場 淳（広島大学）

- 11:10~11:30 文部科学省内のキャリア官僚とノンキャリア職員のスキルミックスに関する考察
ー高等教育政策形成の変容に着目して
○林透（金沢大学）
- 11:30~11:50 国家公務員の米国大学院留学における学びに関する考察
ーインタビューの分析結果から
○長島万里子（洗足こども短期大学） 松村智史（東京都立大学） 長島弥史郎（日本開発構想研究所）
- 11:50~12:10 諸外国における高等教育を専門とする大学院と SD
○高野篤子（大正大学）
- 12:10~12:30 総括討論

学生支援

司会：沖 清豪（早稲田大学）

- 11:10～11:30 障害者差別解消法の改正に関する研究
－企業 私立大学等の民間事業者に与える影響
○小川勤（静岡福祉大学）
- 11:30～11:50 奨学金の返還に関する一考察
○王帥（東京大学）
- 11:50～12:10 大学に対する学生からの苦情への対応体制
－英国・豪州・ニュージーランドにおける対応枠組みとの比較を通じた考察
○大西晶子（東京大学）
- 12:10～12:30 総括討論
-

課題研究

(記載内容は、各課題研究の担当理事から提出された内容です)

科学技術イノベーション政策と大学・高等教育

<趣旨>

「成長しない国家」である日本が「イノベーション」に活路を求めるようになって久しい。とりわけ2014年には、総合科学技術会議(CSTP)が、科学技術政策の司令塔機能の強化を目的に「総合科学技術イノベーション会議(CSTI)」と改称され、高等教育政策は科学技術・イノベーション(STI)政策に大きな影響を受けつつある。それは経済的なイノベーションにとどまらず、大学経営改革への言及も多く、総合知・文理融合などの推進政策は人文社会科学分野にも無縁ではない。

こうした現状に鑑み、昨年度から「科学技術イノベーション政策と大学・高等教育」と題する課題研究を始めた。昨年度は、STI政策と大学・高等教育との関わりについて、従来の科学技術政策からSTI政策への変容、大学改革におけるSTI政策の位置づけ(STI政策における大学改革の位置づけ)、10兆円大学ファンド問題などを中心に検討した。本年度は、昨年度扱えなかった重要なトピックとして、次の3柱の課題を設定した。

- ①STI政策と大学経営(報告者:両角亜希子):科学技術イノベーション政策は科学技術や研究活動に関わるものに限定されない。しばしば大学経営やガバナンスに関する政策提言がなされ、それが大学の在り方に大きな影響を及ぼしつつあるように思われる。STI政策と大学経営とがどのように結びつき、そこにどのような問題があるのかを探る。
- ②大学と公共性(報告者:高木航平):「公共性」は、かつて政府による大学の財政支出を確保するための根拠とされてきたが、財政難や市場化のなかでその効力は弱められた。また、政策において大学のどのような性質や機能を公共的と捉えるかも、とりわけSTI政策との接点において大きく変化している。その変化がどのようなものなのか、そこにどのような問題があるのかを探る。
- ③地域創生と政策のパッケージ化(報告者:標葉隆馬):STI政策における10兆円大学ファンドはごく一部の研究大学の振興政策だという批判もあるが、他方で地域中核・特色ある研究大学総合振興パッケージに見られるように、それを補完する政策も策定されている。とくに人材養成を通じた地域イノベーションの活性化を狙うものだが、こうした政策パッケージ化が大学と地域との関係に何をもたらし、そこにどのような課題があるのかを探る。

コメンテータは、青木栄一(東北大学大学院教育学研究科教授)、司会是小林信一・阿曾沼明裕が担当する。

STI政策は多岐にわたり、文理融合・総合知、研究インテグリティ、経済安全保障など、今回扱うことができない問題も多い。これらは将来検討すべき内容だが、今年度は上記の3つの課題を通じて、STI政策が大学にどのように影響を及ぼし、大学にとってどのような意味があるのかを検討し、高等教育学会・研究者が果たすべき役割などについてもあわせて検討したい。

科学技術イノベーション政策は、研究活動のみならず、大学や高等教育の様々な局面に関わる問題である。その意味で多くの会員にご関心を持って頂きたいと考えている。

司会:小林信一(広島大学)・阿曾沼明裕(東京大学)

<話題提供>

1. 両角亜希子(東京大学)
STI政策と大学経営
2. 高木航平(上智大学)
大学と公共性
3. 標葉隆馬(大阪大学)
地域創生と政策のパッケージ化

<コメンテータ>

青木栄一(東北大学)

高等教育における多様性と包摂

<趣旨>

本課題研究は、「高等教育における多様性と包摂」をテーマとし、その推進方法と、業績主義的平等や卓越性との対立や調和を考察することを目的としている。昨年の本課題研究では、日本の高等教育機関における「多様性と包摂」の現状を確認した。具体的には、業績主義的平等や卓越性との関係を考察するため、「多様性と包摂」の観点から、貧困、性自認、障害、国籍の4つについて、特に学生の受け入れ（入口）と学修・生活（プロセス）に焦点を当てた検討を行った。

本年は、引き続き関心を持つ会員に開かれた形で、現状とその背景分析を超えた、社会理論・価値システムの領域までを視野に入れた議論を行う。具体的には、「排除と包摂」に関する社会理論・枠組みと高等教育システムに内在する歴史的な価値・規範との連関、および高等教育の参加拡大、スキル開発・普及、システム内の分化や格差に関する理論的枠組みを示した上で、高等教育の多様性と包摂がどのように捉えられるかを論じる。

さらに、以上の理論と枠組、そして、「多様性と包摂」が問われる多様な属性領域を意識した上で、高等教育の「出口」であり、企業社会に代表される外部経済システムとの接点にあたる学卒就職に焦点を当てた検討を行い、現状と課題を再評価する。

これらの取り組みを通じて、2年間の研究で現状、課題、社会理論、価値システムを統合し、「高等教育における多様性と包摂」に関する総括を行う。

司会：大西晶子（東京大学）・西本佳代（香川大学）

問題提起・企画の意図

白川展之（新潟大学）

報告1. 排除型社会下の高等教育における「多様性」・「保障」のかたち

倉石一郎（京都大学）

報告2. 高等教育の参加拡大論を超えて：EE-SDモデルによる多様性と包摂へのアプローチ

荒木啓史（香港大学）

報告3. 高等教育の「出口」における「多様性と包摂」の課題と展望：日本の学卒就職の行方に焦点を当てて

（企画メンバーの合作）

居神浩（神戸国際大学）・武藤浩子（早稲田大学）・孟碩洋（東京大学大学院）

課題研究企画 参加者

担当理事 米澤彰純（東北大学） 吉田文（早稲田大学）

幹事 白川展之（新潟大学） 松村智史（名古屋市立大学）

居神浩（神戸国際大学） 岩本健良（金沢大学） 内山弘美（茨城高等工業専門学校）

大佐古紀雄（育英短期大学） 太田浩（一橋大学） 大西晶子（東京大学） 大場淳（広島大学）

小泉かさね（大阪大学大学院） 小嶋緑（広島大学大学院・東北大学） 鈴木拓人（筑波技術大学）

西本佳代（香川大学） 朴炫貞（いのち支える自殺対策推進センター） 福田由紀子（東京大学大学院）

武藤浩子（早稲田大学） 孟碩洋（東京大学大学院）

大会校企画 公開シンポジウム

日本高等教育学会 第26回大会 大会校企画
千葉大学 国際未来教育基幹 高等教育センター共催
大学の活性化と高等教育改革

<趣旨>

2020年代に入り生じたコロナパンデミックという世界史的病疫の蔓延、他方で進むデジタル化(DX)は、大学の教育・研究活動に大きな変化をもたらしつつある。制度的にも2022年の大学設置基準改正、国際卓越研究大学、地域中核・特色ある研究大学総合振興パッケージ、理系転換基金の創設など、日本の大学のあり方を大きく変えるかもしれない新たな高等教育改革が次々に進められている。

他方で、近年の政策提言のなかで、有限な時間をどのように有効に活用し、大学の組織活動の活性化につなげるかという課題も指摘されている(「教育と研究を両輪とする高等教育の在り方について」(中央教育審議会大学分科会審議まとめ、2021年)、「研究に専念する時間の確保について(中間まとめ案)」(総合科学技術・イノベーション会議、2022年))。この論点は、大学の組織のあり方と教育研究活動のあり方、さらにはこれまでの高等教育政策のあり方を問いなおすものでもある。

このようななか、「大学の活性化」という観点から、現在の高等教育改革や高等教育の動向を捉えなおすとき、現状にはどのような問題があり、いかなる議論が必要なのであろうか。「大学の活性化」のために何が必要で、現在の高等教育改革の動向や大学、高等教育のあり方をどのように批判的に考察していけばよいのかを、研究、教育、大学と地域の関係という異なる視点から、幅広く議論していきたい。

講演：

研究の観点から 山極 壽一 氏 (総合地球環境学研究所 所長, 前京都大学総長,
前社団法人国立大学協会会長, 前日本学術会議会長)

教育の観点から 日比谷 潤子 氏 (学校法人聖心女子学院 常務理事, 前国際基督教大学学長)

大学と地域、地方に立地する大学の観点から

山本 健慈 氏 (学校法人大阪観光大学 理事長,
社団法人国立大学協会参与・元専務理事, 元和歌山大学学長)

コメント：小林 雅之 氏 (桜美林大学 教育探求科学群長・教授, 日本高等教育学会会長)

挨拶：中山 俊憲 (千葉大学 学長)

司会：小澤 弘明 (千葉大学 理事(教育担当)・副学長, 第26回大会実行委員長)

大学の学習支援Q&A

清水栄子・中井俊樹 編



学習支援の現場で、学生が抱える多様な課題の支援のためにどう対応すればよいのか。面談の基本から学習支援者の能力開発、専門組織の運営まで、豊富な経験をもつ執筆者が実践に生かせる100の課題とその解決策を紹介する。巻末には面談に活用できる各種シートやアンケート例などを掲載。

A5判並製・178頁 定価2200円

シリーズ大学教育の質保証1

カリキュラムの編成

中井俊樹 編著



大学教育の質保証を推進する教職員として必要な知識を提供するシリーズ。大学が主体的にカリキュラムを編成するため実践的な方法を体系的に解説する。基本的知識に加え、さまざまな編成方法の選択肢を提示。質保証だけでなくカリキュラムの特色を打ち出していく面も重視し、さらに組織内での進め方についても取り上げる。

A5判並製・190頁 定価2200円

大学教員の能力開発研究

能力開発研究

佐藤浩章 著



コロナ禍は図らずも史上最大規模のFDを国内各地や全世界にもたらしたと同時にポスト・コロナ時代の大学教員とFDの変容を加速させた。国内外の大学教員の能力開発の構造と評価をその発展と実態により明らかにし、研究と実践の双方からこれからの時代と社会に相応しいFD概念を提言する。

A5判上製・232頁 定価4950円

日本のゼミナール教育

——人文・社会科学領域等の

学士課程教育における学習共同体の姿

西野毅朗 著



重要視されながらも、あまり実態が把握されてこなかった日本のゼミナール教育。その特徴を、歴史的経緯、現状と課題、さらに学生の学びの様子と社会とのつながり等、歴史的・量的・質的研究アプローチを用いて明らかにする。

A5判上製・324頁 定価4400円

シリーズ大学の教授法(全6巻)

1 授業設計

中島英博 編著

2 講義法

佐藤浩章 編著

3 アクティブラーニング

中井俊樹 編著

4 学習評価

中島英博 編著

5 研究指導

近田政博 編著

6 授業改善

佐藤浩章・栗田佳代子 編著

A5判並製・各200〜232頁 定価各2640円

大学のSD講座(全4巻)

1 大学の組織と運営

中井俊樹 編著

2 大学教育と学生支援

中井俊樹 編著

3 大学業務の実践方法

中井俊樹・宮林常崇 編著

4 大学職員の能力開発

竹中喜一・中井俊樹 編著

A5判並製・各196〜208頁 定価各2420円

ラインズドリル リメディアル教育用eラーニング



▲PC画面

✓スマートフォンでできる！

スマホに対応しているため、ログイン率の高さにつながる。

✓効率よく学習できる！

テストで理解度を判定し、苦手な分野を中心に学習できる。

✓学習状況を一目で把握できる！

管理画面から学生の状況をリアルタイムで把握できる。

ラインズSPI 基礎から学べるSPI対策eラーニング



▲PC画面

✓実践的にできる！

本番同様の画面で、実践的に模擬試験が受けられます。

✓演習問題は2000問以上！

豊富な問題量で力をつけられます。

✓初年次教育でも活用できる！

初年次の基礎教育として、ラインズSPIを取り入れている大学もあります。

■お問い合わせはこちらから

ラインズ株式会社 リメディアル教育グループ

https://www.education.jp/education02/certification_remedial



https://www.education.jp/education02/certification_remedial

第26回大会 協賛企業 一覧（2023年5月10日現在）

- ・ 玉川大学出版部
- ・ ラインズ株式会社
- ・ 東信堂

・ 第26回大会実行委員会では、広告・出展企業を募集しています（申込期限：2023年5月15日）。詳しくは、日本高等教育学会ウェブサイト「大会案内」に掲載されております、下記URLの「日本高等教育学会 第26回大会への協賛・広告掲載および出展のご案内」をご確認ください。

<https://jaheer-web.jp/20230419-1/>

日本高等教育学会 第26回大会実行委員会

- ◎小澤 弘明 (千葉大学 理事(教育担当)・副学長)
○竹内 比呂也 (千葉大学 副学長(教育改革・学修支援)・国際未来教育基幹 高等教育センター長)
前田 早苗 (千葉大学 名誉教授)
◆白川 優治 (千葉大学 大学院国際学術研究院)
◇岡田 聡志 (千葉大学 国際未来教育基幹)
我妻 鉄也 (千葉大学 アカデミック・リンク・センター)
松本 暢平 (千葉大学 国際未来教育基幹)
石川 由美 (千葉大学 大学院人文公共学府・院生)
池田 美穂 (千葉大学 大学院人文公共学府・院生)

◎委員長, ○副委員長, ◆事務局長, ◇事務局次長

(2023年4月25日現在)

日本高等教育学会第26回大会プログラム

2023年4月25日 初版作成

2023年5月10日 修正第2版(自由研究発表 II-4 部会修正)

2023年5月17日 修正第3版(自由研究発表 I-6 部会修正)

2023年6月1日 修正第3版(自由研究発表 II-1 部会修正)

作成: 日本高等教育学会第26回大会実行委員会